

女性に多い性器クラミジア

一 不妊症になる恐れも 症状乏しく放置し悪化

(中国新聞 H18年11月29日水曜)

性感染症の中で最も多い「性器クラミジア感染症」。特に若い女性に多いが、問題は症状に乏しい点。気付かないでいるとほかの病気を併発したり、不妊の原因になったりしかねない。まず病態をきっちり理解することが、予防・治療両面で欠かせない。

性器クラミジア感染症は、クラミジア・トラコマチスという病原体への感染によって起こるが、その感染経路は性行為。10歳代後半から20歳代前半の女性では、7～8人に1人の割合で感染している。

若い女性に多い理由について、帝京平成短期大学（千葉県）の川名尚・副学長（産婦人科）は「女性は膣に感染し、おりものが多くなるとか、軽い下腹部痛、性交痛などを伴うこともあるが、7～8割は無症状なので、気付きにくい」と話す。

気付かないまま放置していると、子宮頸管炎、子宮内膜炎、卵管炎、病原体が骨盤腔に及んで肝周囲炎などを起こしかねない。

さらには卵管の狭窄によって子宮外妊娠を起こしたり、卵管が閉塞して不妊症になったりする危険性もある。

「こうした病態をよく理解して、まず予防を心掛けるべきだ」

予防するには、性行為に際しては最初からコンドームを使用するのが原則。これはエイズや淋菌感染症などへの感染予防にもつながる。しかし、感染した場合は、早期発見による早期治療が大切だ。

「症状がなくとも思い当たる節のある場合は、念のため、最寄の産婦人科で感染の有無を調べてもらった方がいい」と川名副学長は指摘している。

(メディカルトリビューン=時事)